



伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 6 (令和3年12月)
発行: 伊丹市立幼児教育センター
住所: 伊丹市千僧1-1
電話: 072-780-2488
アドレス: youji-ed@city.itami.lg.jp

★伊丹市幼児教育シンポジウム2021開催しました

2021年12月5日(日)、東リ いたみホール大ホールにて、幼児教育・保育の重要性を広く周知し、0歳児から高等学校まで一貫した本市の教育・保育の推進を目的として『伊丹市幼児教育シンポジウム2021』を開催しました。

玉川大学教授の大豆生田啓友氏、神戸大学大学院教授の北野幸子氏を招聘し、乳幼児期の「子どもの主体性を尊重する保育者の姿勢」や「これからの幼児教育の方向性や展望」についてご教示いただきました。また、大阪総合保育大学教授の瀧川光治氏(伊丹市教育委員)をファンリテーターとして、木下誠教育長、奥村智香子荻野小学校長、中務葉子北保育所長を交えて、実践例を踏まえたパネルディスカッションを行い、今の幼児教育の全てがギュッと濃縮された学びの多いシンポジウムとなりました。当日は、市民の方や教育関係者、また九州をはじめ全国各地からお集まりいただき、400名を超える参加がありました。



シンポジウム後のアンケートでは、教育関係者の方より「幼児教育から小学校教育へ、小学校教育から中学校教育へ繋いでいきたいと感じた」「伊丹の教育リーダーの熱意あるお話しに感動しました」「子どもファーストで、主体性を尊重した保育者になりたい」「保育環境の重要性を感じ、毎日アップデートをしています」等々多くのご意見をいただきました。当日録画したDVDをセンターより貸出していますので、各園でご活用ください。これからも幼児教育センターは幼児教育・保育の質の向上に向けて、皆様と共に邁進してまいります。

★行事「おゆうぎかい」からの脱却

アドバイザー訪問の中で、最近よく園長先生から「行事を変えたいのだが、何かいい方法はないか。」「保護者はきっと期待しているから、今さら変えるのは・・・」といった、行事への悩みが聞かれます。「見映え」や「出来栄え」を意識するあまり、子ども達に練習をさせて押し付けていないか、と日々の主体的な保育とのギャップに疑問を感じられています。従来の「おゆうぎかい」「発表会」と言えば、歌ったり踊ったり劇を見せたりして、1年間の集大成として捉える一面もありますが、幼稚園教育要領等(3法令)改訂後の解説では「行事は生活の自然の流れの中で、生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に楽しく活動できるようにすること」と記載されています。

本来「楽しい」の延長線上に「おゆうぎかい」があり、子ども達が考えたものや作ったものを子ども達自ら「見てもらいたい!」という主体的な思いが大切です。それを先生方や保護者が「みんなで応援するよ!」という思いで、周りの大人が子ども達を包み込むことが大切であると考えます。今一度立ち止まって、園の皆さんで語り合う機会を設けることが、解決への糸口になるかもしれません。

★アドバイザー訪問より

11月下旬、市内の幼稚園を訪問しました。イチョウの木々が鮮やかな黄色に染まった園庭では、子ども達が裸足で芝生を駆け回ったり、木の実や落ち葉をいっぱい拾い集めたり、ごちそうを作ったり、自分で作ったお面やカバンを身に着けて園庭で散歩を楽しんだりしていました。どの子も夢中になって遊び、それぞれが「満足した表情をしている」のが、すぐに見てとれました。

この園では、園内で先生方が「子どもの主体性」の観点で日々の教育・保育を振り返り、昨年度から改善策を講じていらっしゃいました。

- ① 子どもが自ら選択できる遊びの時間を十分に確保する。
- ② 子どもの興味・関心や遊びの展開に応じるため、戸外と保育室を自由に行き来できるようにして、遊びの空間の幅を広げるよう工夫する。
- ③ 子どもの遊びに応じて、試行錯誤が存分に楽しめるように毎日、保育環境の見直しを図る。

一人の子どもが室内で、お面を作っていました。頭に結ぶひもの長さがなかなか自分の頭にフィットせず、何度もお面を頭に当て、ひもの長さを測る、ハサミで切る、切りすぎる、ひもを足す、そうしている間にガムテープが髪の毛にくっついてしまい友達に助けを求め、などを繰り返していました。たっぷり時間をかけて、やっと自分の頭にピッタリのお面を完成させて嬉しそうに友達に見せていました。その顔はまさに「達成感」でした。この「あきらめない心」は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「自立心」＝「非認知能力」にあたり、あきらめずにやり遂げることで自信につながります。

園長先生は「日々の保育を振り返る中で、担任同士が子どもについてよく話し合ったり、語り合うことが増えました。私の力ではなく、先生達それぞれの姿勢が素晴らしいんですよ。」と嬉しそうにおっしゃっていました。

その園では、降園時間になると3歳児が「家に帰らない。もっと遊ぶ〜！」と言って園庭の方へ走って逃げていくそうです。「もっと園で遊びたい！」は、保育者にとって最高のほめ言葉です。素晴らしい訪問でした。



※子どもが主体的に環境に働きかけ、遊びを通して学んでいる姿

★おススメ保育専門書

園行事を「子ども主体」に変える！

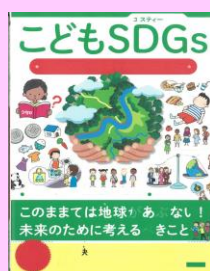
編著：大豆生田啓友
出版：チャイルド本社



「子ども主体」の保育の中で、園行事の在り方を問われている今、悩まれている先生必見。ヒントがいっぱい詰まっています。

こども SDGs

★なぜSDGsが必要なかわかる本
監修：秋山宏次郎
著：パウンド
出版：株式会社カンゼン

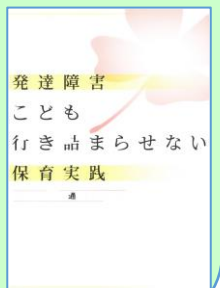


国連が決めた2030年までに世界の人々が達成しなければならない17の目標。一人ひとり何ができるか、子ども達と一緒に考えるきっかけになる本です。

発達障害

**こどもを歩き詰らせない
保育実践**

編著：野藤弘幸
出版：郁洋舎



子ども理解で悩んでいる先生方におススメです。細かな対応を事例とともに詳しく紹介しています。